

## 山口県公立大学法人評価委員会（第31回）の審議要旨

- 1 日 時 平成29年11月7日（火） 10:00～12:00
- 2 場 所 山口県庁本館棟4階 共用第5会議室
- 3 出席委員 辻委員長、岸本委員、樋口委員、広中委員、二木委員（委員長以外50音順）

### 4 審議事項

第3期中期目標（案）及び中期計画（素案）について

### 5 審議要旨 [◆ 委員長 ● 委員 □ 法人 △事務局]

第3期中期目標（案）及び中期計画（素案）について

- 学生が、20年後、30年後の自分自身を見据えた上で、学習することが重要であり、大学においては、学生の将来を見据えた教育カリキュラムなどをよく考える必要がある。

山口県立大学は、「県立」の大学のため、入学者の県内生割合や卒業生の県内就職割合など、県内を意識した目標を掲げているが、海外留学の流れを踏まえると、幾分矛盾するかもしれないが、海外での体験を、いかに地元で生かし、貢献していくかという意識を醸成していくことが県立大学の使命であると考えている。

- 現在、国における第3期の教育振興基本計画などでは、リカレント教育（生涯学習）の推進について審議されている。

今回の目標と計画では、社会人入学の拡大やそれに向けての取組が見えない。

また、目標等にも記載はされているが、寄附金を集めるということについては、文部科学省などもいろいろと考えており、国立大学においても取組が強化されているところであるが、山口県立大学では、その視点が弱いと感じられる。

質問として、「大地共創教育」とは。県立大学のオリジナルの言葉か。

- 本学のオリジナルである。

「大地共創」とは、大学と地域が、地域の人材、文化、生活を共に創っていくという大学の気概を表したもの。今後、この言葉が地域に認知されるよう、あらゆる機会を通じて発信する手段を講じていきたいと考えている。

- 山口県立大学は、女性の割合が多いが、社会人になると働きながら学ぶことは難しいため、学生には手に職をもたせて卒業させていただきたい。

- 研究に関する目標の評価については、論文の引用数の指標も重要である。

また、日本の中だけでなく、世界を意識し、世界大学ランキングにおける県立大学の位置づけについてどのように考えるかという視点も今後は必要と考える。

- 貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。  
外国人教員や留学生、或いは全ての学部生が海外に一度出てみるといった内容についても検討が必要と感じた。
  
- 本学では、これまで生涯学習講座として、出前講座などを県内各地で行い、全国的にも頻度を多く行ってきたという実績がある。公民館等の一般的な公開講座はかなり普及してきたと感じているので、今後は、卒後教育や学び直しといった取組に重点を置き、展開していく方向で検討してまいりたい。
  
- 社会人向けの教育については、スポットの講座だけではなく、学士入学についても国で検討されている。25歳以上の学生の割合について、OECD諸国の中で、日本はわずか2%であり、他国の10分の1程度である。  
このことを踏まえ、国において本腰を入れて行うとなると、山口県立大学はどのように考えるのかということになり、そうすると広報から変わってくる。  
公開講座を超えた視点が必要になると考える。
  
- ◆ 国際学会出席とあるが、理系大学の論文の場合、ほとんど英語となっているが、英語論文に関する実績はあるのか。
  
- 論文数は少ないが奨励はしている。
  
- ◆ 科目履修生として単位を見込む方がよいか、公開講座の延長がよいかといった議論もあるが、場所で見えた場合、山口県はアクセスが悪い。  
社会人入学を行うにしても、宮野のキャンパスだけだと不便である。将来的には、サテライトのようなものもいるのではと考える。
  
- 本学においては、以前、サテライトの設置について検討したことがあるが、経費を試算したところ、年間約1千万円が必要と分かり、断念した経緯がある。  
しかしながら、岩国や下関の学生は、広島、福岡に流れてしまうという現状があり、本学においても、岩国からの志願者数は、全体の20%と非常に少ないという状況を踏まえると、サテライトの設置は、今後重要であると考えている。  
また、寄附金のお話しがあったところであるが、本学の学部は文系が多く、理系の大学と比較すると、寄附金の獲得はなかなか難しいと感じている。
  
- 最近では、コミュニケーション能力が低下しているといった話をよく耳にする。  
大学で学力をつけるのも重要なことではあるが、社会に出て人の中で働くに当たり、どのような能力を身に付けたらよいかなど、基本的なことではあるが、非常に重要なことであり、言い換えれば、人として生きていく力を育てていくということが必要と考える。

◆ 人間力を養成することが、これからの時代の中で、一番大事になってくると思われる。そして、大学がこれをどう養成していくかということが重要である。

人間力を養成する上で、特に教養教育が重要になってくると考えている。

教育で、技術的なもののうち、創造的な分野は残っていくと思われるが、それ以外のは、機械やITといったものによって変わっていく。こうしたことを踏まえ、これから大事になるものは、教養であると感じている。

高齢化率の高い山口県において、山口県立大学こそ、県民の方の健康づくりなど、様々なプロジェクトを動かしてほしいと感じる。

□ 中期計画の素案に示しているが、今回のカリキュラム改定の中で、全学教育を見直そうということで、委員の皆さんから提案のあった「国際化」や「コミュニケーション力」のほか、「学士力」や「社会人基礎力」も含め、抜本的に見直そうと考えている。

本学は、地域人材育成ということで、フィールドワークもかなり取り入れているところであり、社会体験の不足を補う意味でも、強みを活かした形で全学教育を立て直し、その中には、国際化の推進も盛り込もうと考えている。

□ 高齢者研究については、健康福祉社会づくりということで、総合研究のプロジェクトを修士課程ではつくっているが、委員の御指摘も踏まえ、また、CCRCもあるため、高齢者の方も含めた異世代交流ができる形で展開できれば良いと考えている。

#### 【まとめ】

◆ 各委員から多くの御意見をいただいたところで、第3期中期目標（案）については、「適当である」とし、中期計画については、本日の意見を参考にして、今後作成作業を進めていただき、3月の評価委員会で審議、意見のとりまとめを行うこととする。

△ 次回の評価委員会では、第3期中期計画の審議をお願いしたいと考えているので、引き続き各委員の御協力をお願いします。

以上